

保健支出の控除は、よりすぐれた健康保護を受けることのできる者が、全般にみれば、国によって補助を与えられていることを意味している。租税控除を認められた任意制の国民保健サービスに対する拠出が、高くなれば高くなるほど、効果的な租税の補助がより一層高くなる。

任意団体に政府支出の負担を転嫁するように工夫された福祉機関への寄付控除は、定義を改める必要がある。「福祉機関」について現在用いられている定義は、慈善の概念を反映しており、完全に改正する必要がある。

教育費に対する控除も不適切である。社会的諸給付は免税方式を維持すべきでない。資本からの所得と富裕に対する税が検討されるべきである。

消費に関連する租税、つまり、販売税と付加価値税は、低所得者を冷遇しており、インフレーションの傾向をもたらす。それらはある隠匿された租税の形となり、それだけでも非民主的である。遺言による資産と遺産に対する税も、富裕者による税金逃れを増加させる。

社会福祉は特殊な用途を示した租税によって財源を調達されるべきでないが、しかし、その費用は独立した収入で賄われるべきである。この方法は所得の再分配をより一層大幅に保証する。

租税制度のある一般的な簡素化が勧告されている。

Taxation and Social Welfare : Submission to Taxation Review Committee Prepared by Australian Council of Social Service Standing Committee on Economic Factors and Social Welfare, Australian

Social Welfare, Vol. 3, No. 2, June 1973 ;
No. 94, '72/73.

健康給付の改善—— 費用と正当性

Theo Thiemeyer (西ドイツ)

本稿には、健康保護を提供する制度の重要な部分の発達に見うけられる特徴が、病院、病院以外の医療、薬剤保護の項目について論述されている。

健康保護の需要は、高度に工業化された国々できわめて大幅に増大している。一連の予想された理由は、この事実を明白にしている。

つまり、健康保護に対する施設の供給は、質的および量的な双方の見地から改善してきた。科学と医学の発達は、改善された方法で、しかも通常ではより一層費用のかかる方法を使用させるようになった。

所得が上昇し、かつレジャーが増えているので、人びとは「健康」の価値について、より一層意識するようになっていく。

医学的な発見を普及させる出版物の数が増大したこと、全人口のうち広範なカテゴリーの教育水準が上昇したことは、疾病が避けられないものではなくて、科学的かつ技術的には治すことのできるものであるという認識をもたせるようになってきた。

健康給付に対する需要の急速な上昇は、通常では、必ずしも明らかに紛れもない状態を維持するものでないという2つの側面をもつ形で展開されてきた。つまり、一方では、供給はいかにしてこの需要を満すことができるかという疑

問がある。しかも、その需要は望ましいものとして、また増大された福祉の証拠として、基本的にはうけ入れられている。また、他方では、不合理でしかも不真面目な申請と、本来の目的を超える供給を、いかにして避けるかという問題がある。

病院医療、疾病保険による医療、および薬剤保護の3部門における発達の動向を提示することは、健康保護の問題について、ある可能性を明白にすることである。

病院医療

病院部門の拡大は避けられない。現在の傾向は大規模な施設を促進しており、それらの大規模な施設は医療担当者の専門化、資本集中的な診断・治療センターの使用、および全部門の計画的調整を容易にしている。これらの傾向は、医師達が困難で、しかも、時間のかかる症例を病院に送り込む傾向を示しており、また、家族による世話の可能性が急速に減少している事実によって強化されている。

病院医療の増加は費用の増大をもたらしている。費用をカバーする支払いはうまく実施できるものではない。それに対処する方法は、施設と技術を適切に使用させる観点から、病院部門の投資計画を調整することである。

疾病保険による医療

医師の診療報酬は、国民所得もしくは比較可能なグループの平均的所得の変化以上に上昇してきた。疾病と医師に対する診療報酬の仕組みは、供給と需要の要素がなんらの影響をもたないその仕組み自身の力学的な動きを示している。医師自身は診療件数を定めることにより、供給と需要をある程度調整している。

この力学的な動きの影響は2つの要素をもっている。つまり、一方では、部分的には、医師がある与えられた時間内により多くのサービスを提供することをできるようにする技術的および医学的な発達によるものであるが、それぞれの医療給付に増大傾向の現われた結果として、所得が上昇している。さらに、2つ目の要素は、個別的な診療に対する診療報酬と経済的な検討の間には、なんらの関係もないということである。

薬剤給付

社会保障の仕組みとは無関係に、薬剤に対する需要はすべての国々で増大している。

薬剤にかんする問題は、主として、生産の側にあり、次の事情から引き起されている。つまり、それらは次に示されるとおりである。

- (i) 薬剤の多様性、薬剤には同じ物が多い。
- (ii) 薬剤の効能について医師に知らせるのは、生産者自身に託されているという事実。
- (iii) 販売者に直接に呼びかけられた広告の金額。
- (iv) 社会全体の観点から警告されており、しかも、商品の間に見られる競争による価格と生産費の上昇。

今までのところでは、国会は薬剤の問題を処理できなかった。現在では、問題をコントロールするために、新しい方法が発見されなければならない。

Entwicklung der Gesundheitsleistungen deren Kosten und ihre Gründe, Die Betriebskrankenkasse, 59th Year, No. 10, 1971, pp. 253 - 258 ; No. 111, '72/73.